

## 淡路島地域公共交通網形成計画（案）に関するパブリックコメントに寄せられたご意見に対する考え方について

1. 募集期間：平成30年3月8日（木）から3月26日（月）

2. 提出件数：33件（18人）

3. 意見募集項目

- ①計画の目的と位置づけ
- ②地域及び公共交通の現状
- ③将来像と対応方針
- ④課題解決に向けた具体の施策
- ⑤計画の推進
- ⑥全般事項について

4. ご意見の取扱い

A：加筆修正（計画に反映させるご意見）…1件

B：記載済（計画案に趣旨や考え方が既に記載されているご意見）…25件

なお、個別具体の改善提案等頂きましたご意見は、今後の検討において参考にさせていただきます。

C：参考等（今後の地域公共交通に参考とさせていただくご意見）…18件

D：回答（質問等に答えるもの）…7件

※ご意見の取扱いで複数の内容があり提出件数とは一致しておりません。

※いただいたご意見のうち誤字等については、加筆・修正しております。

※記載のページは、パブリックコメント募集時の資料のページとなっております。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
1	2	うんぱんまんの組織化としては	<p>○うんぱんまんの組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状でのうんぱんまんについては、全てボランティアで目的別に運行している。利用は多くあると思うが、運転手不足に合わせ、無料の募集もままならず要望に対応出来ずにいる。</li> <li>また、コミュニティバスの運行も利用者が極端に少ない中で、自由に利用する環境でない為にせっかく運行しても、一部の人の利用しかできていない。この傾向は今後も続くと思われる。</li> <li>提案として、うんぱんまん制度+コミュニティバス制度=リーズナブル費用でいつでも利用可能な制度を構築し、運転者も社員にし、給料制にしてタクシー会社と共同運行する(雇用も増え、利用も多くなるのではないかと、利用料はシルバーカード者は半額)。</li> </ul>	D	<p>○淡路島地域内には、高齢者や障害者など、公共交通機関を利用して移動することが困難な方に対し、通院、通所などの移送サービスを営利とは認められない範囲の料金で提供する福祉有償運送事業者があります。</p> <p>うんぱんまんも NPO 法人として福祉有償運送を行う事業者のひとつです。</p> <p>なお、ご意見のコミュニティバスとの連携については、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	2	島内での交通利用者カード化について	<p>○島内での交通利用者カード化について(公共交通の利用度を上げる習慣をつける事を目的として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的別カードを作成する(運転免許の大きさに統一したカード化)。</li> <li>A シルバーカード: 75才以上の高齢者カード(高速バス利用: 50%割引制度)</li> <li>B 学生カード: 通学生カード(島内通学: 現状の料金を適用)</li> <li>C 身体障害者カード: 身体・知的等の障害者カード(重度者 50%、軽度者 30%レス)</li> <li>D 免許返納者カード: 高齢者で免許証を返納した人(高速バス利用のみ 50%レス)</li> <li>E 妊婦、1歳未満の子供連れ(子育てカード保持の方)バス優先席確保</li> <li>F 周辺カード: 主として観光目的カード(ポイント制度: ふるさと納税制度の景品贈呈)</li> </ul>	C	<p>○淡路島地域内での交通利用者カード化については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」「3) 地域内統一の運賃体系の検討」の取組で、ご意見を今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
3	2	地域及び公共交通の現状	<p>○コミュニティバスの事業費について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洲本市五色町では、昨年やっとコミュニティバスが走り出したが、南あわじ市や淡路市と比較すると走る回数は少なく、料金も高い。</li> </ul> <p>洲本市庁舎は3市で1番金をかけており(41億円)コミュニティバスの予算は2017年度3市中最低の1500万円です。これでは市民ファーストの市政とは言えません。</p>	C	○コミュニティバスの役割については、施策3「地域内バスネットワークの再編」で詳細な検討を行ってまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
4	2	公共交通の現状 (特にコミバス)	<p>○料金について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通網形成計画は夢のような素晴らしい案です。が、運行地域(五色では鳥飼、栢野、塔下等々)の充実、料金、運行回数、交通弱者(老人、高校生等)への配慮が南あわじ市、淡路市に比べて余りにも隔たりがあり過ぎ、他の二市と同じ土俵に立つには同等レベルに持っていくことが必要不可欠です。</li> </ul> <p>(料金の例 南あわじ市内→来川 100円、洲本BC→来川 890円 差がひど過ぎます。)</p>	B	○料金については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2) 各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3) 地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			<p>○高速バスの地域内乗降について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスの乗降の自由化を10年と言わずに早急に。</li> </ul> <p>(五色線) (例 五色BC←→北淡IC。高速バスが走行するも、地域内乗降できないため、自由に行き来出来ない。一般路線バスの便なし。)</p>	B	○高速バスの地域内乗降については、45ページの施策2「(2) 高速バスの地域内乗降(クローズドドアの解消)を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			<p>○コミュニティバスのラッピングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五色地域コミバス、素敵なボディにしてくださいありがとうございました。</li> </ul>	D	○今後の参考とさせていただきます。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
5	2	両市と対等な交通網を作って下さい	<p>○各市の料金の調整について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路市、南あわじ市に比べて洲本市はまだまだコミュニティバスも2ヶ所（上灘線、五色地域）しかありません。両市と対等に交通網を作る話し合いをするには、洲本市は市内の交通を整備し、回数・料金を両市とつりあうように充実してからでなければ話し合いもまだ早すぎるのではないのでしょうか。市内の交通網を整備して便利をよくする事を早くしてください。</li> <li>・年寄った者には何年も待ってられません。少しでも早く実現して下さる事をお待ちしています。よろしくお願い致します。</li> </ul>	B	<p>○バスネットワークについては、施策3「地域内バスネットワークの再編」を踏まえ、取り組んでまいります。</p> <p>また、料金については、53ページの施策3「(4)シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2)各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3)地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
6	2	五色地域コミュニティバス運行開始から1ヶ年	<p>○コミュニティバスの料金、本数、停留所について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五色地域コミバスが運行して1年になりましたが南あわじ市や淡路市の様に洲本市も早急に高齢者、通学生に利用しやすい乗車運賃を1日も早く安くしてほしい。金額も690円や560円など支払いづらい金額なので、回数券なども考えて。また、運行便数も早くふやしてほしいです。具合の悪い病人が長時間バスを待つのもつらいものです。</li> <li>・2月17日に淡路中央スマートインターが出来ましたが、コミュニティバスの停留所も考えてほしいです。</li> <li>・淡路市、南あわじ市は、なぜコミュニティバスの料金が安くできるのでしょうか？淡路島の住民でも市によって差があるのですね。</li> </ul>	B	<p>○バスネットワークについては、施策3「地域内バスネットワークの再編」を踏まえ、取り組んでまいります。</p> <p>また、料金については、53ページの施策3「(4)シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2)各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3)地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
7	2・3	各移動手段等の特徴・課題（理想と現実の乖離）と対応方針  (P40)	<p>○各移動手段等の特徴について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島と四国間の交通手段が淡路交通のみに限られており、運行本数が少ない。また阪神地域と四国間を運行する高速バスは淡路島内を素通りしており、淡路島からこれらのバスに乗降車出来る機会が無い。つまり、素通りのために淡路交通が少数の運行本数ながらも運行しなくてはならない状態を作っている。ただし、4月1日よりフットバスが志知に停車することにより南あわじ市と香川県間に関しては改善される見込み。<a href="http://www.footbus.co.jp/">(http://www.footbus.co.jp/)</a></li> <li>・課題（理想と現実の乖離）と対応方針</li> </ul> <p>高速バスに下記内容を追加</p> <p>項目：阪神地域 - 四国 4 県間運行の高速バスの淡路島内停車。</p> <p>理想：淡路島内と四国 4 県間を高速バスで移動が出来る。</p> <p>現実：阪神地域 - 四国 4 県間運行の高速バスは淡路島内を素通りしている。</p> <p>課題：淡路島内停車による阪神地域 - 四国 4 県間の所要時間延長。淡路交通が運行する徳島発着便との調整。</p>	C	○本計画の対象は、高速バスに関しては淡路島地域を起終点とする高速バスを対象としており、現状では高速バスの運行については需要に見合った便数が確保されているという前提で検討しました。ご意見の淡路島地域と四国間の施策については、需要の動向を見極めながら、今後の検討課題とさせていただきます。
8	3	ア・国内観光客  (P38)	<p>○125cc以下のバイクの通行について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「岩屋では、旅客船により移動手段が確保されており、明石海峡大橋の通行が制限されている 125cc以下のバイクについても渡海が可能となっている。」となっているが、大鳴門橋に関して大鳴門橋道路下部に自転車道が設置されており、明石海峡大橋の通行が制限されている 125cc以下のバイクも通行可能になっている事を追加。</li> </ul>	D	○大鳴門橋での自転車道設置検討については、南あわじ市等のASAサイクリングツーリズム推進事業の取組を踏まえ、兵庫県と徳島県が、別途、2018年度に橋梁の下部空間における自転車道の設置可能性を検討するものです。
9	3	課題（理想と現実の乖離）と対応方針  (P40)	<p>○生活交通バスの公共交通空白地域について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の文言を追記してはどうか。</li> </ul> <p>理想：淡路島内の全公共施設（以下、公会堂・公園・学校・官公庁など）前にバス停留所を設ける。</p> <p>現実：バス停留所が家の近くに無く、且つ家の近くの公共施設前にもバス停留所が無いいため、家からバス停留所まで長い道のりを歩かなければならぬ地域がある。</p> <p>課題：バス路線及びバス停留所の新設。</p>	C	○具体的なルートや停留所の位置については、施策3「地域内バスネットワークの再編」で詳細な検討を行ってまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
10	3	将来像と対応方針  (P36)	<p>○ICカードの導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスだけでなく、一般路線バス・コミュニティバス・船舶についてもICカード導入が必要。</li> </ul>	B	<p>○路線バス・コミュニティバスのICカード導入については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「1) 生活交通バスへのICカードシステム導入の検討」に記載しており、取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
			<p>○船舶について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船舶に対しても将来像と対応方針が必要だが、掲載されていない。</li> <li>・明石岩屋航路、洲本関空航路、土生沼島航路共に始発6時頃、最終24時頃に目的地(対岸)に到着するダイヤを編成。</li> <li>・紀淡海峡(洲本市由良と和歌山市加太の間)に紀淡海峡大橋が実現しない中、公共交通機関(船舶)が無いのは何とかならないのか。船は自動車に比べて速度(航海速力)が遅いという性格上、なるべく航路距離が長くない方が良い。洲本深日航路は航路距離が長いために所要時間も掛かっている。</li> </ul>	D	<p>○本計画の対象(3ページ)は、「なお、船舶については交通結節点における上記交通手段との連携を検討する」としており、航路のダイヤ、サービス内容等については本計画の対象外となります。</p>
11	3	思い切った運賃の値下げを計画に	<p>○バス料金について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島内在来線(路線バス)においては、乗客一人あたりの乗車距離が都市部と比較して長いこと、乗車時間に比して運賃の割高感が否めず、淡路交通の運賃は日本一高いと揶揄されるほどである。利用者の大半が、経済的余力のない学生や高齢者であり、現状の運賃を維持したまま便数だけを増やしても、自家用車からの利用者の取り込みは全く見込めない。丹海バスやお隣の小豆島オリーブバスなどでは、運賃の上限を300円程度にする取り組みを実施しており、この計画期間中早期にそういった取り組みを淡路島内在来線(路線バス)においても行うべきである。また、小学生や中学生は運賃を無料にしたりして、まずはバスに乗ってもらう取り組みが必要ではないか。1000円稼ぐのに乗客2人から500円ずつもらうのではなく、200円ずつもらい乗客5人を確保できるよう努力するという発想の転換をしなければ、乗客のパイを増やすことはできない。</li> </ul>	B	<p>○料金については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2) 各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3) 地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
12	3	クローズドドアシステムの早期解消を  (p45)	<p>○高速バスの地域内乗降について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画期間内にクローズドドアの解消調査検討に留まらず、全路線で早急に実施すべきである。島内在来線（路線バス）の便数を増やし、それを維持することは、バス事業者の努力だけでは不可能である。淡路島内の交通弱者の移動を確保するためには、クローズドドアの解消が、時間的にも費用的にも現実的施策である。高速バス運行開始当初は、淡路交通の既得権益があり、クローズドドアが導入されたが、20年が経過して利用者離れが進み、路線廃止や減便が相次ぎ、在来線（路線バス）のネットワークが衰退し、しかも近い将来淡路市がコミバスを南進させて西浦線や縦貫線から淡路交通を撤退させようとしているなどの現状では、淡路交通の既得権益は無に等しい。バス事業者としても、クローズドドアは終点に向けて乗客が減るため運行効率が悪く、しかも人口がますます減少する中で高速バスを維持していくためには、クローズドドアを解消し、利用者を少しでも取り込む考え方が必要になるのではないかと。名神ハイウェイバスや中国ハイウェイバス、神姫バス特急、快速、急行バスなどを参考に全路線でクローズドドアを早期に解消すべきである。</li> </ul>	B	○高速バスの地域内乗降については、45ページの施策2「(2) 高速バスの地域内乗降（クローズドドアの解消）を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
13	3	スクールバスの路線バス化を計画に	<p>○公共交通空白地帯でのスクールバスの路線バス化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線廃止が相次ぎ、公共交通空白地帯が増えている。しかし、すべての地域において、交通弱者の移動を確保するためにバス路線を作ることは費用的に難しい。幸いなことに、小学校等が統廃合され、スクールバスが各地で運行されている。現在運行されているスクールバスを路線バス化（混乗）することを検討する必要があるのではないかと。法律的に難しいのであれば、淡路環境未来島特区を利用することはできないのか。</li> </ul>	C	○スクールバスの混乗（路線バス化）のご意見については、今後の参考とさせていただきます。
14	3	バス運行経路の見直しとバス停の増設を	<p>○バスルートやバス停の位置等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島内在来線（路線バス）の主たる利用者は、学生と高齢者である。しかし、高校やスーパー、公共施設、病院の近くにバス停がない箇所が多い。この現状では、自家用車から</li> </ul>	C	○具体的なルートや停留所の位置については、施策3「地域内バスネットワークの再編」で詳細な検討を行ってまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
			の利用客を増やすことは難しい。また、バス停の間隔が長く、自宅からバス停までの距離が長いところもある。運行経路の見直しと、バス停の再配置、増設やフリー乗車区間の設置を検討する必要があるのではないか。	C	○フリー乗降の設定については、安全性の確保等が課題となります。地域の実情にあったものを関係者と検討してまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
15	3	将来像と対応方針 (P40)	○対応の時期について ・将来像と言わずに、すぐに対応していただきたい。	D	○各施策については可能な限り早期に着手し、本計画の将来像の実現に向け、取り組んでまいります。
			○本四中川原バス停での乗り換えについて ・中川原の高速道バス停付近にコミバスが乗り入れ、乗車できるようにして五色方面に行ける様にしてほしいです。	C	○具体的なルートや停留所の位置については、施策3「地域内バスネットワークの再編」で詳細な検討を行ってまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
16	3	来訪者にも分かりやすく	○観光パンフレット等へのバス路線とバス停の明記について ・バス路線図とターミナルの位置を観光パンフレット、地図等に記載すべきである。淡路島観光協会が発行する地図には、バス路線図が記載されておらず、観光客が公共交通を利用しがたい。また、ホームページにおいても島内在来線（路線バス）については、バス事業者のリンクがあるのみで大変わかりづらい。兵庫県が発行するガイドブックに至っては、鉄道路線図しか記載されておらず、淡路島内の公共交通が全くわからない。行政が公共交通の利用促進をうたいながら、案内がないのは矛盾している。費用もかからない施策であり、すぐに行うべきである。最低でも主要幹線路線とターミナルの位置は記載すべきである。	B	○施策4「観光地への公共交通の利用促進」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			○来訪者にわかりやすいバス停の名称について ・初めて訪れる人にもわかるよう、バス停名の改称をすべきである。乗り継ぎ拠点を明確にするため、津名港を津名港バスターミナル、洲本高速バスセンター・洲本バスセンターを名称統一し洲本バスターミナル（バスセンターは和製英語で訪日客に通じない）、陸の港西淡・西淡志知・志知を一体運用して陸の港西淡バスターミナルにする。また、岩屋、福良をそれぞれ岩屋港、福良港などに改称すべきである。	C	○淡路島地域公共交通活性化協議会の枠組みを超えて調整が必要な事項であり、ご意見は今後の検討課題とさせていただきます。



No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
17	4	全般	<p>○計画づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体の施策のなか実施時期においてかなりの短期対応の施策が有るが、関係機関との協議の上、財政の面も踏まえ、より一層具体的・詳細・現実的な計画づくりをお願いしたい。</li> </ul>	C	<p>○具体的・詳細・現実的な計画づくりについては、実施時期(42 ページ)に基づき、評価・検証(63、64 ページ)を行いながら取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
18	4	<p>結節点としての 広域拠点機能を 充実する</p> <p>(P46)</p>	<p>○津名港ターミナルの移転について</p> <p>津名一宮 IC に吸収統合させて津名一宮 IC をバスターミナル化してはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現に関西国際空港発着便など長距離路線は津名一宮 IC に停車。</li> <li>・ 洲本市にとっては津名港経由より洲本 IC 経由の方が洲本市内停車停留所が多い(津名港経由だと起終点の洲本 BC のみ停車だが洲本 IC 経由だと洲本 IC 停留所に加えて本四中川原・洲本 IC・宇山にも停車する)上に所要時間が短い(洲本市にとって津名港経由は何のメリットも無い)。</li> <li>・ 津名一宮 IC 周辺に赤い屋根・たこせんべいの里・その他幾つかの商業施設がある。</li> </ul>	C	<p>○広域拠点は、利用者の快適性・利便性を高める機能を整備が必要となります。移転検討については、十分な空間を確保し、かつ周辺の既存施設等と連携することが重要で効果的であると考えております。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
19	4	<p>乗り換え利便性を 高める</p> <p>(P51)</p>	<p>○淡路島中央スマートインターチェンジ(本四中川原)について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①バス停留所名を本四中川原から淡路島中央スマート IC に名称変更する。IC 名とバス停留所名が異なるのは当停留所のみで、名称が異なると利用客の混乱を招きやすい。</li> <li>②高速バスの停車本数を増やす。現状は停車本数が少なすぎ(当停留所の高速バス停車本数は津名一宮 IC 以北及び洲本 IC 以南の各停留所に比べて大きく下回っており、日中は 1 時間に 1 本以上停車を確保できていない)。</li> <li>③高速バス停留所近くに淡路交通都志線及び五色地域コミュニティバスの停留所を設置する(現状、高速バス停から淡路交通都志線岡本バス停まで距離があり、五色地域コミュニティバスは素通りしている)。</li> </ol>	C	<p>○①については、淡路島地域公共交通活性化協議会の枠組みを超えて調整が必要な事項であり、今後の検討課題とさせていただきます。</p> <p>○②については、今後の需要を見極めながら交通事業者等と調整・検討させていただきます。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p> <p>○③については、施策 3「地域内バスネットワークの再編」を踏まえ、検討させていただきます。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
20	4	<p>観光地の情報を 容易に入手できる ようにする</p>	<p>○観光客への情報提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光地への情報だけでなく、ライブ・イベント等の催し情報提供も必要。且つ、催し会場への交通アクセスの情報提供も必要。</li> </ul>	B	<p>○各種の催し等については、57 ページの施策 4「(2)観光地の情報を容易に入手できるようにする」の②取組内容、「1)観光誘客に向けた情報発信の強化」内の「季節やターゲット、テー</p>

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
		(P57)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイドルグループ STU48 (<a href="http://www.stu48.com/">http://www.stu48.com/</a>) は兵庫県を含めた 7 県と瀬戸内海を拠点に活動しており、当グループメンバーには淡路島出身の門脇実優菜さんも所属していて、将来的には淡路島での催し開催も期待されている。劇場船 (船通信 <a href="https://sns.emtg.jp/stu48/stu48/mypage">https://sns.emtg.jp/stu48/stu48/mypage</a>) も造られる予定があり、劇場船が淡路島内の港に接岸出来るようにする必要がある上に港までの公共交通機関の整備も必要。</li> </ul>		マ別の観光情報を常時整理して、公共交通情報と合わせて発信する」に含めており、取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
21	4	クローズドドアの早期解消について  (p45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高速バスの島内乗降について <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バス路線の地域内乗降が不可のため、不便・不利益を被っている地域住民が潜在的に多く存在している。現状において、クローズドドアの早期解消を要望する。</li> <li>・2018 年の運行上の課題調査の実施および 2019 年からの実施エリアの検討、社会実験の実施については、既存の路線バス廃止に伴う、新たなバス運行業務を実施する淡路市南部生活・観光バス路線（2019 年 10 月本格運行）に関連する高速バス路線を先行させることを要望する。</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスの地域内乗降については、45 ページの施策 2 「(2) 高速バスの地域内乗降（クローズドドアの解消）を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</li> </ul>
22	4	高速バスの島内路線への拡大  (p45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高速バスの地域内乗降について <ul style="list-style-type: none"> <li>3 地域内バスネットワークの再編 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域内バスネットワークを再編する <ul style="list-style-type: none"> <li>・「路線バスの減便・休廃止が進み、利便性の低下がさらなるバス離れにつながるという悪循環を招いている」との記載があるが、淡路島に在住している両親は、明石市内や神戸市内に出かける際の交通機関は、①久留麻から岩屋までは淡路交通の路線バス、②岩屋港から明石港までは高速艇、③明石港から J R 明石駅や山陽電車明石駅まで徒歩となっている。一方、神戸市内に在住している私は、自家用車が使えない場合は、その逆の交通機関を利用することとなる。</li> <li>については、高速バスを島内で乗り降りできるようにすることで、バス 1 本で明石市内や神戸市内に出かけることができるようになることから、利便性の向上に大きく寄与するとともに、バス利用が増加すると考えられる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高速バスの地域内乗降については、45 ページの施策 2 「(2) 高速バスの地域内乗降（クローズドドアの解消）を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</li> </ul>

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
23	4	高速バスの島内路線への拡大  (P48)	○広域拠点機能のイメージについて 3 高速バスの維持・充実 (3) 結節点としての広域拠点機能を充実させる P 4 8【参考】◆広域拠点機能【岩屋ポートターミナルの整備イメージ】 ・現在、本施設は整備基本計画を策定しており、既にできているものとして、地域住民に誤解をまねくイメージを与えかねない。	A	○ご提案については、イメージ図を削除します。
24	4	淡路の公共交通における当面の対応策	○路線バス、コミュニティバス、高速バス等の連携について ・淡路は特殊なクルマ社会だが、免許を持たない階層（持てない階層）も 29.8%存在する。一方、70 歳以上の高齢者（現在はクルマに乗っている）層も、57.4%ある。22 ページに公共交通整備の根拠があるが、現状は公共交通のネットは、不十分である。路線バス、コミュニティバス、高速バス等それぞれに連関がなく、バラバラに存在し、地域内交通を一層利用しにくくしている。そこで、これを応急的に、次のような対応策を提案する。	B	○①高速バスの地域内乗降については、45 ページの施策 2 「(2) 高速バスの地域内乗降（クローズドドアの解消）を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			①路線バスの恩恵はないが、高速バスは運行する区間（高速バス五色～三宮線、五色 BC～北淡インター区間）→一般道走行区間の相互乗降を実施する。		
			②路線バスはあるが、1日1往復のみで事実上利用できない区間（淡路交通都志線、湊～鳥飼～都志 B S 間）→鳥飼線と同様、全便湊始発とし、この間の最低1日4往復を確保する。	B	○②、③、④の具体的なルートや停留所の位置については、施策 3 「地域内バスネットワークの再編」で詳細な検討を行ってまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。 ○④の料金については、53 ページの施策 3 「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2) 各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3) 地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			③都志線は、並行するコミバスと運用を共通化し、乗車チャンスを増やし、さらに鳥飼線方面にも、コミバスを延伸する。		
④南あわじ市のコミバスは、広田以遠から洲本市内へ乗り入れるが、淡路交通縦貫線との接続を改善し、乗り継ぎ割引で負担減を図る。					

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
25	4	島内の観光需要を活用した島内交通の活性化	<p>○地域内フリーパスの仕組みづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド客並びに首都圏をはじめとした大都市圏からの観光客の中には、普段自家用車を運転しない方が多くおられます。そうした方々にとって淡路島は、「行ってみたい行き先」の候補にもなりません。自家用車の運転が観光の前提になっているためです。</li> <li>しかしながら、現状の公共交通のダイヤ・便数のままでも、わかりやすい時刻表を作って広報を行うことにより、乗客を増加させることが可能です。</li> </ul>	B	<p>○地域内でのフリーパスの仕組みづくりについては、54 ページの施策4「(1) 観光地へバス等で移動できるようにする」の②取組内容、「2) 観光客が公共交通で周遊できる環境の整備」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
26	5	計画の推進 (p46)	<p>○交通ターミナルの構築について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハブとしての機能集約し、全ての交通情報集約、お互いの連携を図るため、ハブとしてすべての交通事務所を集約する。</li> <li>1. 南あわじ市ターミナル：陸の港西淡</li> <li>2. 洲本市ターミナル：洲本バスセンター</li> <li>3. 淡路市：岩屋ポートターミナルと津名港ターミナル</li> </ul>	C	<p>○広域拠点の充実については、46 ページの施策2「(3) 結節点としての広域拠点機能を充実する」で、交通事業者等と検討してまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
27	5	達成可能な具体的な数値設定に変更を (P61,P62)	<p>○達成可能な目標値の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画では、生活交通バス利用者数を10年間で約2倍を目指すとするが、10年間で約2倍の根拠が分からない。バス利用者離れが進んだ理由を考え、それにひとつずつ向き合わなければ、車社会となった現状を考えると、自家用車からの取り込みは不可能であることは誰もが容易に想像する。単に便数だけ倍増させても乗客のパイは増えず、乗客は2倍にはならない。1年ごとに、路線ごとの利用数の目標を具体的に設定し、その目標を達成するためにはどういった施策が必要かバス事業者とともに議論し、事業者と共に乗客のパイを増やす努力が必要である。バス事業者との議論、合意なしに行政が高い数値を勝手に設定し、立派な計画を立てても、その計画は独り歩きするだけである。</li> </ul>	C	<p>○達成可能な目標値の設定については、淡路島地域の望ましい公共交通網を実現するため、住民・交通事業者・関係団体・行政等で連携し、目標に近づくよう取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
28	6	高齢者にもやさしい交通	<p>○コミュニティバスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこでも、手を上げれば乗り降り出来るようにならないか。</li> </ul>	C	<p>○コミュニティバスのフリー乗降の設定については、安全性の確保等が課題となります。ルート・バス停等の設定については、地域の実情にあったものを関係者と検討してまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
			○コミュニティバスについて ・回数券又は少しでも料金を安くする。	B	○回数券等については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2) 各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3) 地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			○バス利用推進について ・子育て中は色々出費も多い。淡路交通の定期及び料金は高く、その為自家用車の方が安くなる。なぜもっと安くしないのか。安ければ多くの人が利用する。(高齢者は1日乗り放題とか安く)	B	○料金については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2) 各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3) 地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			○高速バスについて ・中川原の入口がわかりにくい。道路上に文字化し、だれでも視覚的にわかりやすいように。	B	○高速バスの停留所への案内は、交通事業者等と調整のうえ、わかりやすい案内を目指してまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			○観光客について ・淡路島中、1日乗り放題で安くする。(県政150周年記念企画乗車券取り組みはよい。これからも希望する。)	B	○1日乗り放題については、54ページの施策4「(1) 観光地へバス等で移動できるようにする」の②取組内容、「2) 観光客が公共交通で周遊できる環境の整備」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
29	6	全般事項について	○計画(案)の内容について ・淡路島内の公共交通網に関し簡潔にまとめられているため、交通網の現状・問題点等が良く解り参考となった。	B	○施策3「地域内バスネットワークの再編」において、路線バス・コミュニティバス・自主運行バスの効率なネットワークの形成について、交通事業者等と検討し、取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			○公共交通の充実について ・障害者及び高齢者にとって、コミュニティバス・自主運行バス運行が、現状では十分に障害者・高齢者の移動需要を満たしているとは、言い難い地域が多々見受けられると思います。この課題を解決するための施策の充実を望みます。		
			○公共交通空白地の対応について ・人口減少・高齢化が進み、公共交通機関の利用頻度が減少するため公共交通機関の空白地帯の拡大が懸念されます。至急対策を検討してください。	B	○公共交通機関の空白地帯の対応については、50ページの施策3「(2) 自主運行バスによりきめ細かいサービスを実現する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
			<p>○高速バスと路線バス等との接続について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、高速バスと生活バスとの接続が悪い時間帯が多々あります。この時間帯を埋めるための移動支援手段を考える必要があると思います。</li> </ul>	B	○接続時間については、51ページの施策3「(3) 乗り換え利便性を高める」の②取組内容、「3) 各モード間の接続を意識したダイヤ調整」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			<p>○高速バスの島内乗降について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスにおいて現状では、淡路島内において乗降ができないがその解消を検討してほしい。</li> </ul>	B	○高速バスの地域内乗降については、45ページの施策2「(2) 高速バスの地域内乗降（クローズドドアの解消）を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
30	6	全般事項について	<p>○地域の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院 100 人前後來院されますが 30 人程度は高齢交通弱者 そのうち 10 人程度はバス、タクシーを利用されております。以下のような話を聞くことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①入れ歯の調整（負担金 50 円、診察時間 5 分）のために往復バス代が 1500 円かかる</li> <li>②西浦線が 3 時間ない</li> <li>③遠田方面はタクシーしかない</li> <li>④鮎原の歯科医院が廃業したので鮎原からバスで来た</li> <li>⑤片道だけでも医院で送迎してほしい</li> </ul> </li> </ul> <p>○観光客の公共交通利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年私事ながら小豆島に芸術祭の観光に行っていました。小豆島のバスは上限が 300 円で 1 日フリーパスが 1000 円ととても安く本数も 20 分毎くらいあり観光客にとっても非常に使いやすかったです。バスはすべてノンステップバスになっておりました。</li> <li>・南あわじ市のマイクロバスには観光客は乗りにくいですが淡路市のような車両か通常の路線バス車両だと気軽に乗れる気がします。</li> </ul>	C	○バスネットワークについては、施策3「地域内バスネットワークの再編」を踏まえ、取り組んでまいります。また、料金については、53ページの施策3「(4) シームレスなバス利用環境を整える」の②取組内容、「2) 各モード間の接続を意識した乗り継ぎ連絡切符の検討」、「3) 地域内統一の運賃体系の検討」で取り組んでまいります。貴重な情報をいただきありがとうございます。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
				B	○1 日フリーパス及びノンステップバスの導入については、54ページの施策4「(1) 観光地へバス等で移動できるようにする」の②取組内容、「2) 観光客が公共交通で周遊できる環境の整備」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
			<p>○高速バスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バスについてですが、系統が複雑で停車地も地元の人でも分かりにくいので舞子に案内所をかねた切符売り場や発車案内の電光掲示板を設置してはいかがでしょうか。また各高速バス停にも高松道のバス停であるような電光掲示板があると親切です。</li> </ul>	D	○高速舞子バス停での切符売り場や電光掲示板の設置については、本計画の区域（淡路島地域全域（洲本市、南あわじ市及び淡路市全域））ではありませんが、案内等のご意見は今後の参考とさせていただきます。
			<p>○高速バスの地域内乗降について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路市と徳島を結ぶバスが今年3月末で全廃されます。関空バスや海部観光に徳島方面もインター等から乗車させてもらえないでしょうか。歯科の症例により淡路医療センターで対応できないケースもあり歯学部のある徳島大学病院に紹介となるケースも現実的に存在します。津名発6時台の便は高齢者の通院にちょうど良かったのですが残念です。4月からはマイカーがない場合、洲本までタクシーで移動して乗り換えるか、舞子にバスで出て徳島行に乗り換えるかの選択になります。洲本学園都市線だけでも乗り降り自由とするのは賛成です。北淡～医療センターが速くなりますし遠田～志筑も実現します。淡路SAからワールドパーク ONOKORO や洲本へ観光客のアクセスも可能になります。始発なら洲本着6時56分で春から前述の洲本始発となる徳島行に乗り換えもできます。さらに津名一宮の県道沿いのバス停に上りだけでも停車すると便利になります。</li> </ul>	B	○高速バスの地域内乗降については、45ページの施策2「(2) 高速バスの地域内乗降（クローズドドアの解消）を調査・検討する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
			<p>○高速バスの団体割引について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族やグループで洲本や南あわじから高速バスに乗ると運賃が高額なのでマイカーを利用しがちですが、グループ割引みたいな需要を喚起する企画切符があると利用しやすいと思います。</li> </ul>	B	○グループ割引等の企画切符については、54ページの施策4「(1) 観光地へバス等で移動できるようにする」の②取組内容、「2) 観光客が公共交通で周遊できる環境の整備」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。
31	6	推進体制について (p43)	<p>○推進体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島地域公共交通網形成計画には、基本的な要件は網羅されており、その確実な実現は、淡路島の将来に亘り活力を保持していくためには、必要不可欠であり、住民、交通事業者、企業、団体、行政等地域の人々が一体となって</li> </ul>	B	○推進体制については、43ページの施策1の「(1) 統一的な推進体制を構築する」で取り組んでまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。

No.	項目番号	ご意見のタイトル	ご意見	取扱い	ご意見に対する考え方の要旨
			<p>取り組み、果たさなければならない課題であると考えている。そういった中で、関係者が自分の利害を考えるのではなく、地域全体さらには地域の将来の利益を優先する考え方に立って、必要な予算を確保することは勿論のこと、利害が絡み合う関係者を、強いリーダーシップによって、調整ならびに統制し、淡路島地域公共交通網形成計画の実現を成し遂げる、強力な推進体制が必要であると考えている。是非、そのような推進体制作りをお願いしたい。</p>		
32	6	費用負担は誰がするのか	<p>○実施の主体者間の費用負担について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画を実施するにあたり、費用負担の在り方が全くわからない。特に、本計画の柱となる路線バスネットワークを維持、発展させるにあたっての費用がどのくらい必要で、誰がどう負担するかの議論がなければ、いくら立派な計画を立てても実行することができないばかりか、10年後にはネットワークがさらに衰退してしまう。民間企業である既存バス事業者の自助努力、内部補助だけでは限界に近づいており、近い将来、現在のネットワークですら維持することが困難になると想像される。公共交通の確保は福祉の一環ととらえた上で、運行費用を市が出すのか、県が出すのか、国が出すのか、自治会が出すのか、商工会が出すのか、観光施設が出すのか、誰がどの割合でどれだけ出すか、それを将来にわたって維持できるかを議論し、財源の確保に努めなければ、たちまち立ち行かなくなる。本計画において費用負担の在り方を明確にすべきである。</li> </ul>	C	<p>○費用負担については、網形成計画の策定後、交通事業者・行政等の役割を明確にするなかで、各事業主体の取組みや事業費、費用対効果など進捗状況の確認を行うとともに、計画に基づく施策の総合調整を行ってまいります。ご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
			<p>○客貨混載事業の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、全国各地で客貨混載事業が行われており、財源の確保のために高速バスも含めて検討すべきである。</li> </ul>		C
33	6	全般事項について	<p>○施策の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針に従って、きめこまかくまとめられているので展開していただきたい。</li> </ul>	D	<p>○具体的・詳細・現実的な計画づくりについては、実施時期(42ページ)に基づき、評価・検証(63、64ページ)を行いながら取り組んでまいります。</p>